

私たちが未来を変える ～安心社会に向けて～



連合は10月10～11日、結成30周年の節目となる第16回定期大会を開催。
新たな「連合ビジョン」の実現に向けた「2020～2021年度運動方針」を決定し、神津里季生会長、
逢見直人会長代行、川本淳会長代行、相原康伸事務局長をはじめとする新役員を選出した。

■ 会長挨拶 (要旨)



神津里季生
連合会長

労働組合こそが世界を救う 連合はその先頭に立ちよう！

平和の推進に不可欠」と記されている。戦乱やテロは「貧困」が残る限り続いていく。その「貧困」に、本当の意味で歯止めをかけることができるのは、富を生み出し、それを分かち合い、安心社会の構築につなげていく労働組合とそのための労使関係という機能に他ならない。

結成30年の節目に、歴史の大きな流れにおける労働運動の意義と、ナショナルセンター「連合」の立ち位置を改めて提示し、これからの連合運動の共通の土台にした。

労働組合は18世紀後半、産業革命の進展のもとで劣悪な状況に置かれた工場労働者が、そこから脱しようとして団結し連帯することで誕生した。その後、人類は激変の歴史をくぐることになったが、とりわけ二度の世界大戦の意味を正面から見据えておく必要がある。

1919年にILO（国際労働機関）が創設されたが、背景にあったのは第一次世界大戦への深い反省だ。今年の総会で採択された「仕事の未来に向けたILO創設100周年記念宣言」の前文にも「政労使三者による継続的かつ協調的な活動が、社会正義、民主主義、普遍的かつ恒久的な

労働組合があつて、集团的労使関係が生まれ、そこではじめて労働者の主張が形を伴い、権利が保障され、生活が守られる。そして人々が活き活きと働けることで、良質な製品がつくられ、素晴らしいサービスが世に送り出され、配分の基礎となる付加価値が実現し、富が生まれる。人類の悠久の歴史の中では、労働組合の誕生はごく最近のことだ。労働組合こそが世界を救う。そして連合はその先頭に立たなければならない。

多様性をめぐる問題
～多国間主義の重要性～

第一次世界大戦を経て不戦の誓いを立てたはずの人類は、再び第二次世界大戦の惨禍を引き起こした。経済の混乱がその一因をなしたことは事実だが、最も根源的な要因は「多

様性の排除」であつたのではないか。

足もとの憎しみの連鎖に目を奪われ、間違つた方向に向かおうとする未来を変えることこそ、労働組合の社会的責任だ。私たちは多国間主義と国際連帯のもとに結束し、目の前にとらわれた政治リーダーの跳梁跋扈を止めなければならぬ。今、連合がITUC（国際労働組合総連合）と連携して取り組む「核兵器廃絶1000万署名」もその一環だ。平和は日常生活と労働を成り立たせる大前提であり、その大切さを強く訴えていこう。

「100」の社会を実現していこう。
戦後日本の価値観と労働組合

明治末期に産声をあげた日本の労働運動は、再三にわたる弾圧や戦時中の中断を経て、終戦直後にGHQの指導によって復活した。そして、ナショナルセンター分立の時代から、多くの困難と課題を乗り越え、政策推進労働会議、全労協を経て、1989年11月21日、民間連合と官公労組が統一して連合が結成された。

しかし、現状をみると、これほどの経済発展を成し遂げながら、生活者・労働者本位のセーフティネットは極めて脆弱であり、戦後築き上げてきたはずの平和主義・基本的人権・国民主権という価値観が本場に根づいているのか、労働三権は働く人々の力を支える権利としてあまねく行使されているのか、疑問と言わざるを得ない。

まず「働き方改革」を社会に根づかせなければならぬ。そのためには集团的労使関係の確立と拡大が不可欠だ。労使が徹底して話し合い、個別企業ごとに制度を見直し、適切に運用していくという、働く者のための「働き方改革」を進めていく。

連合の歩む道
～ぶれずに進む

振り返れば、わが国は、敗戦を経て、戦前・戦中の全体主義的社会構造から脱出し、その後1990年代の政治改革、2009年の民主党政権成立によって二大政党的政治体制を成就したかにみえた。しかし、民主党政権崩壊によりその流れは挫折し、旧民主党勢力の再編・分裂が繰り返され、一強政治からの反転を願う多くの有権者の期待は行き場を失った。そうした中、今臨時国会でスタートを

切った共同会派の責任は極めて重い。労働組合は、政治の世界の無用な混乱とは一線を画し、連合フォーラムを軸にしながら、働く者・生活者本位の政策を実現していくために、構成組織・地方連合会のネットワーク力と連合本部の政策力をフルに発揮していかなければならない。

多くの困難と課題を乗り越え、ナショナルセンター連合は結成された。以来30年、極端な左右に道を外すことなく、ぶれずに真つすぐ歩んできた意義は限りなく大きい。取り巻く環境はこれからも大きく変化していくだろうが、大会スローガン「私たちが未来を変える」安心社会に向けて」を心に、果敢に挑戦していこう。

2019 台風 19 号により
各地において被災された皆様に
心からお見舞い申し上げます

※カンパのお願いはこちら
https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/kizuna/support/saigai_typhoon19/



※全文はホームページ参照 <https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/greeting/20191010.html>